

宮崎国際大学教育学部では令和2年6月1日より対面授業に移行しました。4月20日～5月29日に実施したオンライン授業について1・2面に掲載しています。



宮崎国際大学大学案内2021に掲載された写真

宮崎国際大学教育学部ニュースレター

コロナウイルスとZoomを用いたオンライン授業について (新しいコミュニケーションツールとして)

教育学部長 福田 亘博



人類の歴史は感染症との戦いの歴史でもある。古くは中世ヨーロッパにおけるペスト流行があり、またウイルス性パンデミック（世界的流行）として、1918年の「スペインかぜ」がよく知られている。直近の新型インフルエンザは2009年に起こっている。このようにウイルス

性パンデミックは現在まで10年～40年間隔で起きており、次のパンデミックはいつ起こるか危惧されていたところに、今回のコロナウイルスである。早く終息するように祈るばかりである。

ところで、今回のコロナウイルスは、報道されるように各方面に甚大な影響を与えた。小学校～大学では、「3つの密」を避け、さらに移動・集合を避けよとの国の指針により、登校・対面授業は事実上不可能となった。本学でも、4月の入学式後、オリエンテーションの短縮・実施、その後直ちに休校措置をとった。しかし、本学ではコロナウイルス感染拡大防止に対応しつつ授業時間も確保するため、Zoomによるオンライン授業を4月20日から実施した。なお、本学におけるZoomによるオンライン授業が短期間で組織的に実施できたことは驚異的であったことを強調しておきたい。

また、オンライン授業期間中アンケート調査等で特に新入生の動向等に注意を払った。その結果、オンライン授業そのものは問題ないが、新1年生で画面を通しての授

業において不安感があるとの報告もあった。そのため、3年生の先輩学生によるアドバイザーアシスタントがZoomによるグループ面談を行い、新入生の不安感解消を図った。

Zoomは、米国において会議用に開発されたソフトである。関西にある連携大学・関係省庁間でのプロジェクト会議がZoomを用いて行われたが、実際に出張して対面で行われる会議と同等の有益な会議となった。

今回、コロナウイルスによる影響で図らずもZoomによるオンライン授業・面談・会議等を経験したが、教育学部教員の反応もいづれも効果的に実施できたとの意見であった。今後、必要に応じて補講・補習や学生との対話・指導・助言などでも、個別に利活用できるコミュニケーションツールとして、いろいろな場面で活用していければと思っている。

目次

コロナウイルスとZoomを用いたオンライン授業について	1
教員採用試験合格のための特別対策講座	1
卒業した先輩からのメッセージ	2
オンライン授業について	2
今年度の抱負	3
教育学部教員より	3
保育者養成実践講座	4
入試広報部からのお知らせ	4

今年度はさらに充実した「教員採用試験合格のための特別対策講座」

学生教職支援センター長 中原 邦博

を、4月から毎週3回、各教科や教職教養の解説はもとより、模擬授業を繰り返し行って自信をつけています。

教師になるためには卒業の規定単位の修得は当然ですが、「教員採用試験合格」という大きな壁を乗り越えなければなりません。どの学年も、既に教員採用試験に合格した1期生から3期生までの先輩の後を追うように熱心に対策講座に取り組んでいます。まもなく4年生の一次試験です。

今年も全員合格を目指して、最後まで全力を尽くしてほしいものです。



新型コロナウイルス感染症防止のため、前期授業の開始は4月20日からでした。講義のほとんどはオンライン授業で行われましたが、特別対策講座の一部はマスクや消毒スプレーなど対策を徹底し、窓を開け放って3密を避けた状態で行われています。4年生は今日も（6月5日）模擬授業を交代で行い、教員採用試験の合格を目指して実践力を高めています。年間計画では、1年次の後期に12回、2年次に12回、3年次に24回（そのほかに模擬授業や全国模試等を実施）開設し、さらに、4年次には学外講師の先生方による特別対策講座

卒業した先輩からのメッセージ

小学校の現状と後輩に期待すること

宮崎市立大宮小学校教諭 岡村 美鈴
(令和2年3月宮崎国際大学教育学部卒業)

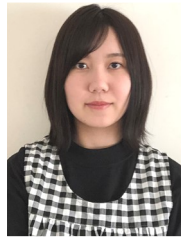


私は、今年の春に卒業し、4月から大宮小学校の2年生の学級担任をしています。小学校では、新型コロナウイルス感染拡大のために臨時休校が続いていました。長かった休校がようやく終わり、5月25日から一斉登校がスタートしました。最初は戸惑いを見せていた子どもたちでしたが、保護者のみなさんの支援もあり、だんだんと2年生としての自覚も生まれ、学校生活にも慣れてきたようです。これからの成長が楽しみです。

私が、新型コロナウイルス感染拡大という現状に負けず、前向きに仕事に向き合っているのは、教育現場での子どもたちや周りの先生方のおかげだけではありません。大学での勉強や仲間とともに培ったものが、今の自分を支えているように感じています。後輩のみなさん、学ぶ環境が充実している大学時代に、先生方から大いに学び、友人との人間関係を大切にしながら様々なことに取り組み、教師としての力を蓄えてほしいと思います。

学べることや時間、仲間を大切に

幼保連携型認定こども園 南町保育園保育教諭 宮川 佳奈
(令和2年3月宮崎国際大学教育学部卒業)



私は今、保育園で年中児クラスの担任をしています。これまで行ってきた実習等とは違い、就職してからは担任としての責任もあり、毎日が学びと気づきでいっぱいです。夢であった保育士となり、大好きな子どもたちと過ごせる日々幸せを感じています。

私は実習に行った園に就職しました。就職してから、自分だけが不安な気持ちではなく、子どもたちも、「実習のお姉ちゃん」から、「担任の先生」になったことに戸惑いがあり、初めは子どもたちとの距離感、関わり方にとっても悩みました。子どもと一緒に思いっきり遊び、いけないことはきちんと伝えていく、メリハリを大切にしながら、信頼関係を築いていくことが何より大事なことだと思います。

大学生活で学んだことはもちろんですが、保育士として同じように頑張っている友達がいることはとても心強いです。お互い情報交換をしたり、悩みを相談できることは、今の私にとって大きな支えです。後輩の皆さんも、今、大学で学べるたくさんことや時間、仲間を大切にしてほしいと思います。

オンライン授業について

オンライン授業を実践して感じたこと

教育学部教授 渡邊 耕二

宮崎国際大学では、4月20日からオンライン授業が始まりました。オンライン授業は、Web会議システムを活用して行う授業のことです。オンライン授業を行うに当たり、まずWeb会議システムZoomの使い方を調べ、オンライン授業でできる・できないことを把握しました。

実際の授業では、インターネット回線の調子に翻弄されることがあります。パソコンやタブレットの使い方に戸惑うこともあります。しかし、オンライン授業を通じて、多様な教育方法の可能性とそのためスキルアップの必要性を実感しました。例えば、私は、タブレット型パソコンのタッチペン機能を活用し、学生がノートを取りやすいように工夫したつもりです。また、グループ活動など、学生同士の学び合いが難しい反面、集中して個人でしっかり考える時間は、多く確保できると感じました。

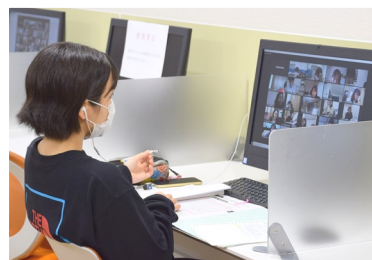
言葉の正確さが求められるオンライン授業、身振り手振りが生きる対面授業、とそれぞれに特徴があります。従来の方法に加え、オンライン授業の実施やオンデマンド教材の作成を視野に入れ、学生の学びがより確実になるように、今後努めたいと思います。



オンライン授業の様子:1年生対象「算数I」

オンライン授業を受講して

教育学部3年 安藤 夏奈
(宮崎県立都城西高等学校出身)



新型コロナウイルス感染拡大の影響で、4月からZoomを用いたオンライン授業の形態で新年度がスタートとなりました。オンライン授業では、周りに聞く友だちがいなかったため、先生がおっしゃったことをきちんとメモしながら聞くことによって、集中力を高めることができます。また、画面を通して先生や友達の表情を見ることができるので、対面授業とは違った新鮮さがあります。しかし、分からない問題や質問したいことなどを先生や友達に容易に聞くことができないといった欠点も感じました。

このような中で、今年は教育実習や介護等体験、幼稚園実習なども行われます。今の自分に足りないことは何か、やらなければならないことは何かを考えて行動できるようにしたいです。授業で学んだことを生かしながら、今後につなげられるように頑張ります。

大学生生活を締めくくる1年

宮崎国際大学に入学して

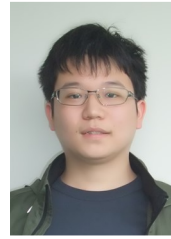


教育学部4年 濱口 真彩
(宮崎県立宮崎大宮高等学校出身)

私は、今年教員採用試験を受験します。これまでに経験した教育実習などを通して、子どもの教育に携わりながら自分自身も高め、よりよい教育を追求し続ける教師の仕事にやりがいと憧れを感じました。実習を終えてからは、必ず教師になるという強い気持ちをもって勉強に取り組んできました。試験のための勉強ではなく、教員になってからも生かすことができるように日々の勉強を自分のものにしていきたいと思っています。

また、今年は大学で学んだことの集大成として卒業論文にも取り組みます。私は、「保幼小連携における音楽教育を活用した学級づくり—小1プロブレム課題を通して」という題目で研究を始めています。幼児教育と小学校教育においてどちらでも行われている「音楽」に着目し、音楽の特性を踏まえた小1プロブレムを起こさないための取り組みについての研究と考察を進め、自分が小学校教諭となった際に活用できるようにしたいと思います。

大学生活も残りわずかですが、様々なことに挑戦していきたいです。



教育学部1年 小野 竜鵬
(大分県立安心院高等学校出身)

私の将来の夢は、子どもたちが自ら思い描く未来へ羽ばたいていけるようサポートできる先生になることです。そのような先生になるためには専門的な知識と教育実践力が必要です。私の1年間の抱負は、「何事にも積極的に取り組み誠実に努力する」ことです。

新学期が始まりましたが、新型コロナウイルスの影響で対面授業ができずにオンラインでの授業をしています。同級生や先輩方、先生方とも顔を合わせることができず、寂しさと不安を感じる大学生活のスタートでした。しかし、先生方の熱意によりオンライン授業によって必要な講義の知識を得ることができ、先生方には感謝の気持ちで一杯です。

これからの4年間は、社会で生きていくための最後の学舎となります。礼節・勤労、そして努力を胸に、夢に向かって頑張っていきたいと思っています。

教育学部教員より

大学の中味を知ってもらう活動

教育学部教授 保田 昌秀

教育学部に着任いたしました。私が小学校の時、先生から「勉強したことを帳面にまとめなさい、分かっていることと分からないことを整理するのが勉強だよ」と教えられたことをよく覚えています。小さい頃に受けた教養は、その後の人生にも影響します。学生の皆さんは、幼児・児童という大切な時期の教育をしっかりできるように精進ください。

私は、1年生必修科目の情報処理を担当します。また、「大学で教えていること・学生が身に付けたことを可視化して、社会に公表する仕事（これをIRと言います）」も兼務します。学生の皆さんにはアンケート調査をお願いすることがありますので、ご協力ください。

(担当科目：情報処理)



ここにも、“伸び”の証が！

教育学部教授 河原 国男

着任以来、素晴らしいと思ったことが数々あります。限られた数の教職員それぞれが持ち場持ち場で献身的に協働しておられること、教員が学内運営の面倒な実務から可能なかぎり免れ、授業づくりに専念できる体制が整備されていること、月々の理事長だよりや学内の通信などで学生たちのがんばりの姿が生き生きと発信されていること、等々。

これらにつけ加えて、卒業論文の水準の高さ、ということも指摘したいです。今図書館で、さりげなく展示されています。現代的教育課題に関するテーマについて、理論的であるとともに、現場に即した実証的な調査研究が、驚くほどの綿密さでうかがえます。この方面でも、一人一人が“伸びる”、そんな魅力的な学舎なのでね。

(担当科目：教育原理、教職概論、教職実践演習、教師とは何か—史的省察—)



植物の世界のおもしろさ

教育学部講師 田川 一希

4月に着任しました田川一希です。私の専門は植物生態学です。これまで各地の山や湿地を訪ね、虫を食べる植物である「食虫植物」の研究を行ってきました。

植物の世界のおもしろさは、その多様性にあると思います。小さいながらも可憐な野草の花たちを観察すると、色や形、においなどの形質はさまざまであることが分かります。その多様性は、昆虫など他の生物とのつながりの中で、進化してきたものです。みなさんも、散歩道で花を見つけたら「なぜこんな形質をもっているのかな？」と疑問を持ちつつ、じっくりと観察してみませんか？足元の自然にちょっと目を向けるだけで、日々のくらしが豊かになることを感じていただけたらと思います。

(担当科目：保育内容指導法(環境)、環境の科学、学習の科学)



幼保コース対象 教員採用試験等合格支援プログラム「保育者養成実践講座」

積極的な学び合いを

教育学部准教授 日高 まり子



宮崎国際大学教育学部では、入学後から、学生それぞれが資格取得や進路を見据えて、小幼コースと幼保コースを選択します。「保育者養成実践講座」は、質の高い教員等養成のために教員採用試験等合格支援プログラムに今年度より位置づけられた講座です。幼保コースの学生全員（1年生は後期より）を対象に、保育現場にいかせる模擬保育など保育の実践的な内容について体験を通して学ぶことをねらいとしています。

全員が実施する模擬授業や模擬活動、採用試験や幼稚園教諭・認定こども園保育教諭等登録試験等に向けた模擬試験など、学年だけのつながりではなく、先輩や後輩と共に学び合う講座です。模擬授業では、実習での経験を生かしながら研究保育指導案を作成し、事前研究や事後研究をして実践力を高めていきます。保育指導案の作成や実習日誌の記録の仕方、造形活動、身体表現、音楽あそびなど、より現場で活用できる内容を積極的に学び合います。

保育者養成実践講座での学び

教育学部2年 湯浅 七海

(宮崎学園高等学校出身)



私は、これまで積極的に教科教職自主ゼミに参加してきました。昨年度試行された保育者養成実践講座では、実際に保育現場に出た際に活用できる手遊び歌を先輩方から学んだり、先生から保育指導案の書き方を学んだりしました。1年生の時点では、まだまだ手遊びや歌に関することは多くは知りませんでした。参加したことで知らなかったことを知ることができよかったですと感じています。

昨年度実施された講座で、3年生の先輩が保育実習の際実施した研究保育の内容を、模擬保育の形で後輩に示してくれました。そこでは、子どもたちには具体的に説明し、なるべく実物を見せるとよいことなど配慮すべきことを学ぶことができました。今年度より本格実施された保育者養成実践講座にしっかり参加して多くのことを吸収し、実践力を向上させ、より質の高い保育者を目指したいと思います。

後期には、私たち2年生が行う模擬部分保育が予定されており実践に生かす保育研究の機会になると思います。その経験を通して、実習先で自信をもって保育に取り組めるようにしたいと思っています。

入試広報部からのお知らせ

お問合せ先 TEL 0120-85-5931
MAIL admissions@sky.miyazaki-mic.ac.jp

LINE相談受付中

「入試制度について知りたい」など、見学会に行くことが出来ない、という高校生・保護者の方のために、公式LINEアカウントのチャット機能をオープンしています。お気軽にお問合せください。



週末キャンパス見学会 & 相談会

大学について知りたい！オープンキャンパスまで待てない！という方のための週末見学会（要予約）です。詳細は本学HPで！ ※予約状況によって人数を制限する場合があります。

TIME/ 10:00~12:00

CONTENTS/ ◆学部説明 ◆受験対策講座（任意）◆入試相談（任意）

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回
6/20 土	9/5 土	10/10 土	11/7 土	12/12 土	1/23 土	2/20 土	3/13 土

詳細はこちらから！



宮崎国際大学

〒889-1905 宮崎県宮崎市清武町加納丙1405番地

電話：0985-85-5931

FAX: 0985-84-3396

ホームページ: <http://www.mic.ac.jp>

国際教養学部 比較文化学科
教育学部 児童教育学科



宮崎国際大学